

「2017年ベトナム国家大学ハノイ校サマースクールプログラム 参加報告書」

京都大学農学部2年 松村 寛子

今回の派遣に参加したことで、国際理解への関心が高まりました。ベトナムでは、日本、韓国、中国などの外国からの支援を受けてできた橋、高層ビル、電車の駅といった建造物が多く見られました。ニュースで報道されるだけだと、日本がベトナムを支援しているということを実感するのは難しいですが、ベトナム人に「この橋は日本が作ったんだよ」と言われると、互いの国のつながりを感じることができました。一方で、発展と地域住民の生活環境との隔たりもありました。ハノイでは、現代的な商店やホテルが次々と建設されていましたが、住宅街の整備は遅れていました。ベトナム滞在中に、ベトナム人学生の自宅を訪問する機会が度々あったのですが、住宅街の道は狭くて水はけが悪く、かつ家が密集しているために暗く、また、電線がむき出しになっているところもありました。外国人観光客のための投資も重要ですが、ベトナム国民の住まいの改善を今後進めていくことが課題であるように思われました。しかしながら、家の中の雰囲気はとて素晴らしいものでした。今回交流できたベトナム人のご家族や友人の方々は、日本人学生を温かく迎えてくれ、皆が床に円く座って食事をしました。外国人であっても誠意をもってもてなすという彼らの精神に、私は深く感動しました。他国の文化を体験し、ともに食事を囲んで話をする、あるいは話そうと試みるのが、良好な国際理解を築くために大事なことだと思います。この雰囲気が絶えることのないよう、我々は努力しなければなりません。

ベトナムでの経験で特に驚いたのは、交通事情です。外国語大学へは徒歩で通学していたのですが、初めてのラッシュアワーを見たときは、その光景に圧倒されました。車道で自動車が渋滞していたため、たくさんのバイクが歩道を走っていたのです。日本では歩道と車道が明確に区別され、歩道をバイクが走ることはありませんが、ベトナムでは日常の風景でした。さらに、人文社会科学大学へはタクシーで通学していたのですが、バイクを追い越すために反対車線にはみ出たり、車間距離が不十分なのに無理やり車線を変更したりと、日本とは異なる運転技術を駆使しています。その技術の多くは危険であるため、交通事故の防止にクラクションが大きく貢献していました。道を歩いているときも、車に乗っているときも、相手に注意を促すクラクションが常に聞こえてきました。ベトナムの交通ルールについてはよく分かりませんが、運転者が安全に運転できるようになるまで、まだ長い時間がかかりそうです。

毎朝無事に通学した後、今回の主なプログラムであるベトナム国家大学ハノイ校での授業に参加しました。特に日本語の授業は印象に残っています。日本ではベトナム語を勉強する機会がほとんどないため、ベトナムでも日本語を勉強する人口は少ないのではないかと考えていましたが、実際は日本語を選択する学生が多いことが分かりました。また、外国語大学の日本語の授業では、日本語にはイントネーションがあり、拍があるということを知りました。私は普段、イントネーションや拍などを気にかけることなく日本語を話していますが、ベトナム人にとってこれらは非常に難しいらしく、文の調子の上がり下がりや文章の区切り方に苦戦していました。一方で、私たち日本人学生がベトナム人学生にベトナム語で話す場面も幾度かありましたが、相手に意味が通じないことが多々ありました。ベトナム人が普段何気なく話し分けている声調が、日本人にとっては聞き取ることも話すことも非常に難しかったです。互いの言語にはそれぞれ固有の特徴があり、それゆえ外国語を学ぶことは難しいのだということを知りました。それと同時に、互いの言語を学びあうことで、苦労を分かち合い、親近感を育むことができました。日本語を見つめなおす機会にもなり、大変勉強になりました。

ベトナムでの体験を通じて、ベトナムでは日本への関心が高まっていることを感じました。将来、日本での就職や日本人との結婚を考えているベトナム人学生が多いように見受けました。今後の私の進路として、人の移動がしやすい環境を築くこと、そして様々な地域、特にアジア圏の文化を学んで互いの国の発展に関われるような仕事に携わりたいと思いました。